
穴

ヤマダゴロウ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

穴

【ZPDF】

N1029A

【作者名】

ヤマダゴロウ

【あらすじ】

穴の底に何故か居る。

深い穴の底にいる。

僕は足元を見つめ、小さな声で呟つた。

空はより高く、より狭い。

ねえ君。

僕は本当に君の事が好きだったよ。

君も僕の事が好きであつてくれたなら、どんなに幸せただろうか。

一人で居ると、暗い考へで一杯になる。

考へる必要もない事だと分かつてはいるのに。

僕は、これと言つて出る必要もなく、なにかをする予定もなかつたので、しばらくその場で少し考へる事にした。

このままこゝでくちるのも悪くない。そんな甘い思考が沸いて来た。

今まででは微かに上から光が射し込まれていたのだが、急に注がれていた光がなくなつた。

何故だろうと不思議に思い、僕は空を仰いだ。

青い空は見えなくなつたが、微かに漏れる光に目がくらむ。

どうやら光を蓋していた物は、生き物のようだつた。

その影が微かに動き、僕はそれを察した。

「誰かいるの？」

聞きなれた声に、目を見開いた。

返事をしようかしまいか考へていると、
先に影が音を発した。

「あら、こんな所で何してるので？」

僕は微笑んだ。

「ああ、君か…。」

「どうしたの?」

僕はなんだかおかしくなった。

確かに僕は、こんな深い穴に落ちてまで、何をしてこのだらう。

君は僕を見ていた。

「落ちちゃったの?」

僕は笑つて答えた。

「どうやらやうみたい。」

差し込む光に目がくらみ、僕はすっと皿を細めた。落ちるは奈落の底。

end

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1029a/>

穴

2010年10月22日07時31分発行